

第十章 小川水系

一、流域

全面積

五七方里

利用シ得ヘキ面積

一八方里

地勢 本川ノ源ハ飛驒山脈ノ末端ニシテ海拔四、六〇〇尺ノ定倉山及越道峠ニ發シ北西ニ向テ流出シ諸溪流ヲ合シテ下ルコト約一五里負釣山ノ東麓南保村字蛭谷地内ニ於テ右ニ支流相又谷川ヲ容レ蛭谷、山崎、大家ノ庄等ノ諸村落ヲ過キ舟見町字舟見地内ニテ左ニ負釣山ノ西麓ヨリ發スル舟川ヲ入レ泊町ノ西方ヲ流レテ富山灣ニ注キ其ノ全長約四五里トス、流域ハ東方黒菱山及同支脈ニ依リテ笹川及境川流域ト疆ヲ隔テ南及西ハ定倉山越南峠及負釣山ヲ連絡スル分水嶺ニヨリ黒部川流域ニ隣ル。地勢南方水源部ニテ急峻ナルモ下ルコト須臾ニシテ平夷トナリ遂ニ富山灣ニ終ル

地質 古生代ニ進發セル花崗岩ハ流域南部ノ分水嶺ヲ形造リ之ニ繼キテ概ネ粗粒ノ石英粗面岩トナリ更ニ閃綠岩、片麻岩ト變シ字蛭谷附近ヲ界トシテ第三紀層ノ丘陵部ヲナシ間モナク第四紀沖積層ノ平野ニ開展ス而シテ蛭谷

ノ上流小川温泉附近ニハ小區域ノ侏羅層ヲ認ム

林野狀態 流域ノ延長約四里其ノ内、半以下ハ平地ナレトモ以上ハ殆ト山地ニシテ而モ甚シク荒廢シ林相又不良ニシテ針濶混濬林及草生地大部ヲ占メ針葉樹ニ乏シ

二、河川狀況

上流水源地方ハ山勢急峻ニシテ河床又巨岩、大石横ハリ兩岸迫リテ急湍激水ヲ呈ス、相又川ヲ容レテヨリハ水量ヲ増加スレトモ水勢ハ漸次衰ヘ河幅廣マリ所々砂礫洲ノ堆積スルヲ見ル

利用シ得ヘキ範圍 相又川合流點ヨリ下流山崎村大字

岩崎ニ至ル約一五里ノ間ニシテ其ノ落差約四二〇尺トス

流量ノ變化 流域割合ニ海岸ニ近ク且降雨多量ナル地

方ナレハ流量概シテ豊富ナレトモ地勢急峻ニシテ加フル

ニ荒廢極度ニ達シ居ルヲ以テ豪雨ト共ニ異常ノ出水ヲ起

シ兩岸ヲ崩壞シ土砂ノ流出大ニシテ從ツテ流量ノ變化モ

甚シク之カ利用上不便尠シトセス

三、治水及水利事業

本川下流ノ河川法準用區域ハ左岸

下新川郡山崎村大字山崎字北羽入、右岸同郡南保村大字蛭

谷字岡田割以下海ニ至ル間ニシテ前記利用範圍ニハ直接

關係ナシ。本川ヲ引用スル附近灌漑用水ヲ舉クレハ左ノ

如シ

用水組合	取 水 口	反灌別溉	灌溉町村	記事
南保外二箇町村組合 泊外一箇町村組合	下新川郡南保村小川橋脇 下新川郡南保村小川橋脇	一〇〇 ^坪 一〇〇 ^坪	南保、五ヶ庄、泊 泊、五ヶ庄	右岸 右岸

其ノ他流木、漁業、舟筏等ニハ特ニ記スモノナシ。許可水力地點トシテハ北陸共營電氣株式會社ノ一箇地點及山崎

小川水力地點表

順位(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
水量、落差ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河 川	番地點	取 入 口	放 水 口	水 量	落 差	馬力數	水 路 長	流 域 面	發 電 率	年 均 均 馬力數	等 級
(八五八)	小 川	番外	富山縣下新川郡南保村 蛭谷相又川落合	同 郡南保村 蛭谷荒砥	湧水 * 三七 低水 * 五九 平水 * 八四	* 二三四	九六一 一五三二 二、一八二	一五〇	一六五	一〇〇 九五二 八四六	九六一 一、四五八 一、八四六	甲

右岸ニ導水シ大字蛭谷字荒砥地内ニ於テ本川ニ放水ス而シテ水路ハ全部開渠ニシテ延長約一、五八〇間ナリ

ルカ或ハ自家用工業等ニ消化ノ外途ナカルヘシ。本地點ハ百馬力以下ノ小川電氣株式會社許可地點ニ關係アリ

本地點附近ニテハ本川ニ沿ヒテ良好ナル里道アリテ交

通運輸ノ便惡シカラスト雖放水口附近ニ面積約一〇〇町

歩ヲ灌溉スル用水取入口アリテ水利使用上相當考慮ヲ要

スルモノナラン。電力供給地トシテハ泊町方面ニ送電ス

水電株式會社ノ一地點アリ
四、水力地點 小川流域内ニ於ケル水力地點トシテハ南保村大字蛭谷地内ニ於テ取入口ヲ有シ其ノ使用馬力數濁水量ニテ九六一馬力ヲ有スルモノアリ

水力地點ノ説明

順位八五八 本地點ハ相又川落合ニ於テ取入口ヲ設ケ

第十一章 黒部川水系

第一節 概 説